

## 第23回東北静脈経腸栄養研究会に関するアンケート

研究会全参会者は191名でした。

そのうち133名の方からアンケートのご返却をいただきました。（回収率69.6%）

以下、結果をまとめましたのでご報告いたします。

### 設問概要

Q1: 今回の演題のなかで「聞いて良かった」と思われた演題の番号に丸をつけてください。（複数回答可とします）。各セッションにつき最低一つはご記入ください。

Q2: 深柄和彦先生の特別講演で、勉強になった点はどんな点ですか？ご感想をお聞かせください。

Q3: あなたのご職業は？

Q4: 今回の研究会をなにで知りましたか？

Q5: 研究会の時間設定はいかがでしたか？

Q6: 今後、本研究会で演題発表をしてみようと思いますか？

Q7: その他、本研究会の運営等に関してのご意見、ご感想がありましたらお書きください。

## Q1: 「聞いてよかった」と思われた演題は？

演題全体のなかでの得票数順位上位3演題は下記の3題です。得票数分の人数の方が、その演題を聞き、「聞いてよかった」と思われたということです。  
発表した内容が誰かの役に立てれば、これほど発表しがいのあることはありません。  
上位にランクされた演者の先生におかれましては、本当におめでとうございました。後日、表彰状を送らせていただきます。  
また投票して下さった方々にお礼申し上げます。

### 第一位(67票)

岩手県立胆沢病院NST **千葉 実**  
「NSTにおける調理師の役割」



### 第二位(57票)

奥州市歯科医師会 **清水 潤**  
「奥州市歯科医師会と岩手県立胆沢病院のNST連携  
— 歯科医師にとって未知の世界に飛び込んでみて —」



清水氏

### 第三位(53票)

岩手医科大学附属病院NST **三浦吉範**  
「ラットによる半固形栄養剤投与時の微量元素の出納バランスに関する検討」



— セッション別上位3演題 —

一般演題—I 症例報告

**第一位(29票)**

東北大学病院栄養管理室 **岡本智子**

「慢性呼吸器疾患における栄養モニタリング項目の検討」

**第二位(28票)**

東北大学病院NST **稲村なお子**

「間接熱量計による呼吸商の変化を栄養モニタリング指標とした急性肝不全の1症例」

**第三位(21票)**

日本海総合病院 栄養給食室 **中村真貴**

「修正アトキンス療法が有効であった小児難治性てんかんの1症例」

一般演題—II NST

**第一位(67票)**

岩手県立胆沢病院NST **千葉 実**

「NSTにおける調理師の役割」

**第二位(57票)**

奥州市歯科医師会 **清水 潤**

「奥州市歯科医師会と岩手県立胆沢病院のNST連携  
—歯科医師にとって未知の世界に飛び込んでみて—」

**第三位(33票)**

奥州市歯科医師会 **森岡範之**

「急性期病院NSTでの歯科介入効果」

一般演題—III 臨床研究と基礎研究

**第一位(53票)**

岩手医科大学附属病院NST **三浦吉範**

「ラットによる半固形栄養剤投与時の微量元素の出納バランスに関する検討」

**第二位(49票)**

東北厚生年金病院外科 **佐藤武揚**

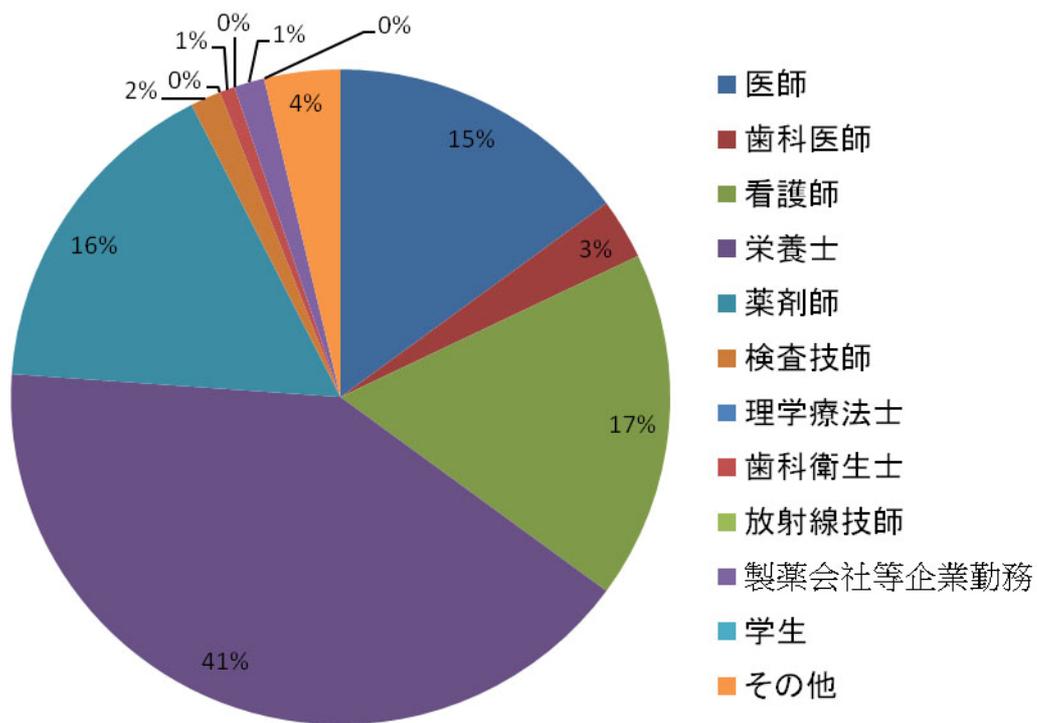
「胃切除術後超早期の経口摂取による炎症反応の抑制と発熱期間の短縮に関する検討」

**第三位(36票)**

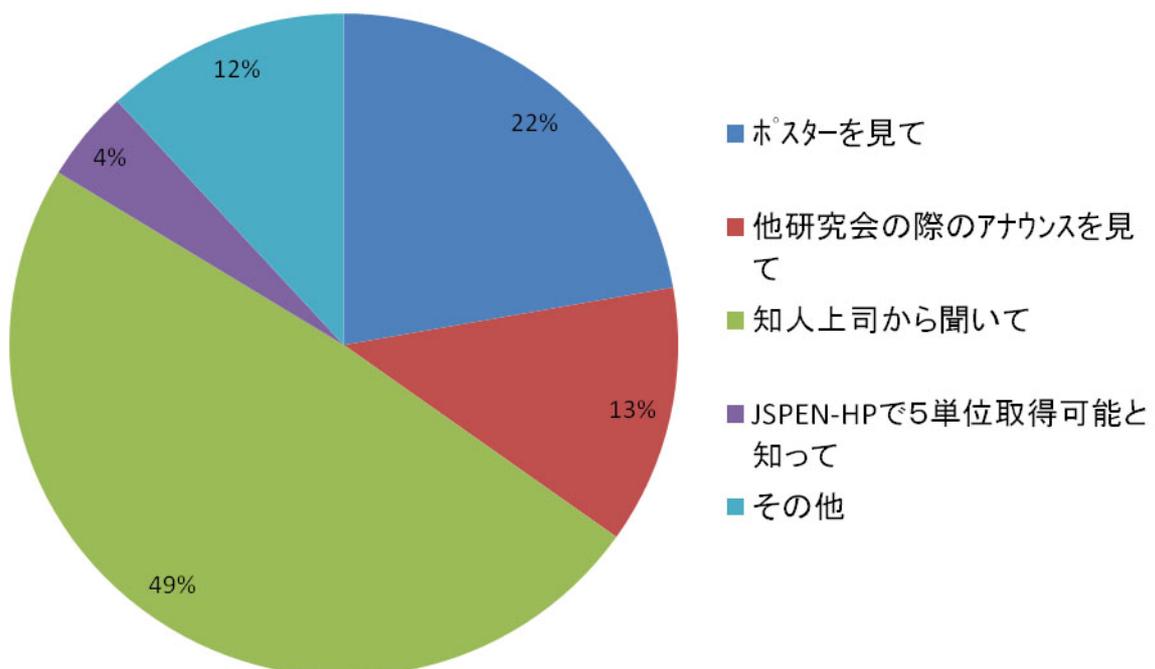
東北大学生体調節外科学分野 **佐藤 学**

「経腸栄養剤の粘稠度が消化管運動に及ぼす影響—イヌモデルを用いた基礎的検討—」

### Q3: あなたのご職業は？



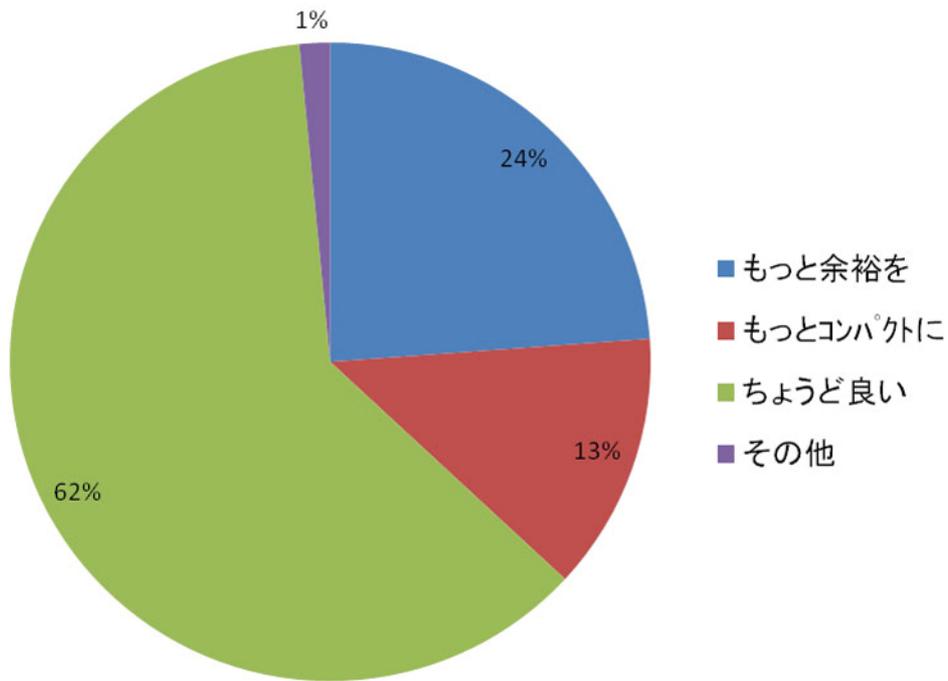
### Q4: 今回の研究会をなにで知りましたか？



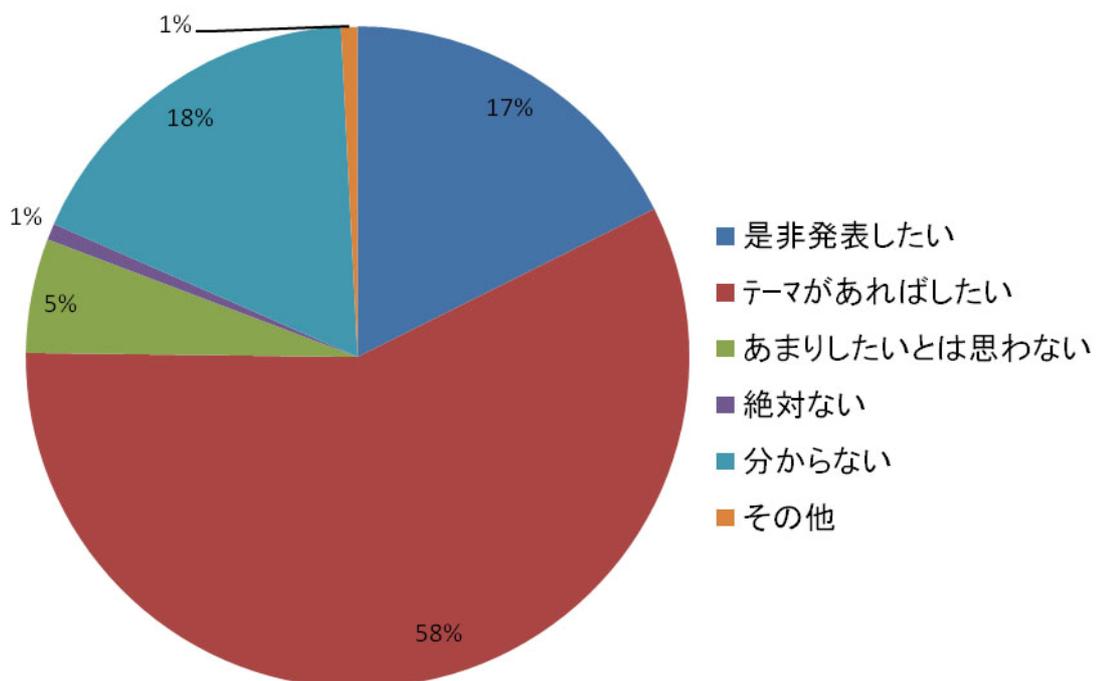
## Q2: 深柄和彦先生の特別講演で勉強になった点はどんな点ですか？感想をお聞かせください。

経口摂取、経腸栄養を使うことが免疫機能回復に役立つ。経腸栄養剤の早期投与の重要性。腸に栄養やることで腸管の血流が増える。
周術期における腸管免疫と全身免疫の関連
腸管を使うことが全身免疫強化になる事をあらためて教えていただきました。グルタミンは経静脈的な投与でも腸管免疫upになるのですか？
経腸栄養がなぜ良いのか、詳しく説明していただいとでも参考になりました。
早期ENの有用性について
経腸栄養の重要性を理論立てて理解できた
ENのエビデンス
経腸栄養の大切さについて再認識しました。
生体防御のメカニズムが良く分かった
腸を使用することの重要性をわかりやすく講演していただいたと思いました。
腸を使うことが改めて免疫に良いことが分かりました。
自信を持って経腸栄養を自分たちが進めて広げていかなければならないと再度確認できました。
食べて腸を使うことは改めて人の免疫能が上がるという根拠が理解できました。臨床に活かしNST活動を更に進めていきたいと思っています。
腸を使う事の効果
液体よりも半固形化したものの方が吸収される微量栄養素の量が少ないという事はすごく興味深い内容だった。
経腸栄養が全身の免疫に影響するときいて、呼吸器系の患者にもっと積極的に使ってみようという気になりました（消化管使えるし、肺の免疫あげたいし・・・）
腸管リンパ球が腸管外粘膜にも作用していることは知らなかった。
腸管に栄養がはいらないと免疫が低下するために感染が発生しやすくなるというのはとても勉強になった。
経腸栄養の重要性を再認識できて良かった。
経腸栄養と免疫機能のかかわり
経腸栄養は腸管免疫を維持する上で有効だという内容がわかり役立った。話もわかりやすく聞きやすかった。
より具体的なデータを示していただきとでも参考になり勉強になりました。経口、経腸は腹腔内白血球の活性化の点。 12時間で肝免疫↑。楽しかったです。
腸を使うことの意義の再確認ができた。
経腸栄養の重要性を再認識した。学術的なデータを基にしたエビデンスに基づいて説明していただいた。
経腸栄養によって急速に腸管リンパ球が増加するところが増加することに驚いた。
明解なお話で経腸栄養のよさが理解できた。（免疫能からみた経腸栄養の優位性）
腸を使用することが良いと言われていることが実際に経静脈での栄養投与と比較してあり納得する内容でした。
腸管リンパ装置が全身の粘膜を守っているということ。となりのトトロは所沢がモデルだったこと。知りませんでした。
経腸栄養を行う上でのポイント重要性をスタッフ、患者に説明できるように少しはなれたと思います。
経腸栄養の生体防御能の効果、免疫力改善効果のデータ
当院でもNST依頼された患者様の中で初めは食欲がなく表情も暗かったが、NSTチームで何度も検討し、徐々に食事量が増えて、それと同時に発言や表情も出てきた。 そのような症例はNST活動を続けていくことの励みになる。少しでも経口摂取量を増やせるよう管理栄養士として食事の工夫をしたい。
とても分かりやすく腸管の使うことの意義を理解できた。先生の声はとても聞き取りやすかったです。
腸を使うってやっぱり素晴らしいです。
経腸栄養がいろいろと以前から耳にしたことはありましたが、今日の講演を聴いてなぜいいのか勉強になりました。
とても分かりやすい講演でとても良かったです。
経腸栄養と免疫、腸を使うことの有効性。話が上手で興味深そうかへえた。
食事時の栄養管理の参考になりました。
早期の経腸栄養の重要性が理解でき参考になりました。（口から食べることが）
全て
腸を使用することの意義の再確認
経腸栄養の重要性をいろんなデータから知ることができて良かった。これまで漠然と理解してました。
経口、経腸から栄養摂取をさせることの意義を勉強させていただきました。ありがとうございます。
R&A方式でわかりやすく説明していただきとてもよかったです。
当院にも消化器外科が存在しておりますが、今でもope後、絶食のプロトコルで行っており不安です。 是非当院でもご講演して頂ければと思います。
回腸バイエル板のリンパ球数などの検討を右半、回盲部切除の症例でやった点
初めて特別講演で深柄Drのお話を聞きました。臨床にfeedbackできるように研究内容を説明していただきありがとうございます。
分かりやすい治療成果が出て参考になりました。
経腸栄養がすごい！と少し自信を持って言えるようになりました。腸管外の免疫にも経腸栄養して良い影響を与えるということ。
経腸栄養ってすごい
肝の免疫cellが経口摂取後すぐに回復するという実験結果が興味深かったです。
食重データを含めた内容で、また先生の聞きやすい話し方でとても楽しくうかがうことができました。
腸が使えるときには使った方がいい理由がはっきり分かったことはもちろん勉強になりましたが、腸を使っていれば経腸栄養剤でも食事でも免疫の効果は同じくらいだと思ってしまうので、やっぱり食べられるときは食事が一番だということが確認できてよかったです。
静脈栄養と経腸栄養使用の違いがあることを細かくデータを示しながらお話しして理解しやすかったです。
経腸栄養がなぜいいのか、いろいろな比較対象があり、多方面からわかった。
経腸栄養が良いことは知っていたつもりですが、明瞭なデータを示して頂き、理解と納得ができました。すぐにでも臨床に生かして行きたいと思っています。
腹腔内の免疫について・・・興味があるがむずかしい。「なぜ腸を使うことが患者さんにいいの？」のポイントを活用します。
経腸栄養がなぜいいのか根拠が分かった。

### Q5: 研究会の時間設定はいかがでしたか？



### Q6: 今後、本研究会に演題発表をしてみようと思いますか？



# Q7: その他、本研究会の運営等に関してのご意見、ご感想がありましたらお書きください。

勉強になりました。ありがとうございました。
歯科医や調理師など今までなかなか意見を聞けなかった部分の方のお話もあり、楽しく勉強させていただきました。
場所的には仙台でいいですが会場が寒い。発表時間 4分は苦しいと思います。せめて7~8分でしょうか？
時間が限られているため、話のスピードが速く、またスライドも次々なのでゆっくりと聴くことができない。
でもそのため色々な話(症例)の発表ができるので仕方ないですが・・・
時間的配分に余裕が欲しい。いろいろな話を聞けるのはうれしいのですが今後は演題数数を制限するなどの必要もあるのではないのでしょうか？
看護師、栄養士、薬剤師など部門別に行き聞きたいところを自由に聞けるようにして発表例を増してほしいと思います。
看護師の立場での発表が聞かれず残念です。
特にないです
特別講演の資料(かんたんなもの良いので)があると良かった
(演題11) 陰の立役者、調理師さんが発表されたことが大変素晴らしいことです。NSTに貢献していることを調理師さんが自覚し、意識向上につながり良かった。
空調が寒かった
講演会でNSTに興味をもていなかったDr.もきいてみようかなと思うような内容を希望します。臨床に直結するのがいいです。今回はgood!
もう少し演題が少ない方が集中できるかと思われる
一般演題が多いのはすごくいいことだと思うが、すべて口頭発表だと一演題についてじっくり勉強できない(時間、早さ等)。
今回は良いが、これ以上演題が多くなるならポスターでの発表も考えた方がよいと思う。
エコかもしれないが会場がやや寒いように感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
研究のみならず大変お疲れ様でした。一部の部分はむずかしいところもありましたが大変勉強になりました。当院のNSTスタッフ間でも継続して頑張っていきたいと思っています。
時間を過ぎている演者が非常に多いと思った。時間内に発表を終了することも演者のマナーではないかと思えます。
後半部分の発表は内容が濃く、他の病院でのNSTのレベル向上を発見することができ、今後の参考にしていきたいと思っています。
特にありません。お疲れ様でした。
少し雰囲気は固いように思えた。もう少しフランクに話せるような進行であれば良かったと思えました。会場内が寒かったです。
一般演題の発表時間をもう少し長くしてほしい。最低でも7-8分位・・・
運営スタッフの皆さまは大変お疲れ様です。内容の濃い研究会で業務へ生かすことができるためいつも参考にさせていただいております。
活気があってよかったです。
どの演題もとても勉強になりました。当院ではNST外来がないため、とても興味深く聞かせていただきました。
発表時間 4分は厳しいです。最低5分、出来れば6分はほしいですね
時間が足りなくて途中でやめた方もいらしたが、最後まで発表させてほしいと思うし、こちらも最後まで聞けなかった。特別講演を最初にもってきてはどうでしょうか。
特になし
内容が豊富で興味深く学ぶことができました。ありがとうございました。
昨年度の研修会より聴講させて頂いております。今年度も大変興味深い症例や取組等の発表で勉強になりました。
この研修会は、県や職種も問わずいろいろな研究を学ぶことができる貴重な機会なので今年も楽しみにしております。
会場も広くなりよかったです。ありがとうございました。ホームページ開設だったので山形についてもタイムリーな情報を得ることができ助かっております。
ありがとうございました(スムーズな運営だったと思います)
今回の会場は席に余裕があって良かったです。(地理的にも良いと思います)
初めて参加しました。半日を一日とするのはいかがでしょうか。
開始を午前からにしてもう少し発表時間討論時間を増やす。積極的な人が集まっていると思われました。十分な時間が必要です。
今回参加して薬剤師の発表が少なかったのが残念でした。地域での薬剤師の連携が希薄なのか、栄養士に対しての関わりが難しいからなのか。
今後は可能であれば薬剤師の発表の枠を数題設定してもらえればうれしく思います。
今回のセミナーはとても勉強になりました。今日学んだことを今後を生かしていきたいと思っています。
毎年、回を重ねるごとに内容的にレベルアップされておりとても勉強になります。今年は半圆形栄養剤の研究についてとても興味深かったです。
歯科に口腔ケアをお願いすると良いことが分かった
半圆形栄養剤投与にも注意が必要
半圆形栄養剤の重大な部分を知ることができました。26番の発表は是非、今後も研究を続けてほしいと思います。
各病院の現状などが勉強できた
他施設の症例や現状を知ることによって施設では経験のできない症例を見ることができ、今後の活動に活かせる点。